

教員名	岡崎 眸 (OKAZAKI Hitomi)
所 属	文教育学部言語文化学科日本語教育講座
学 位	P h . D (1986 年 ミシガン大学)
職 名	教授
URL / E-mail	

◆研究キーワード

共生日本語教育 / 年少者日本語教育 / 日本語教員養成

◆主要業績

総数 (2) 件

- ・ 中国における日本語教育の課題－聴解と作文に焦点を当てた教授法の開発－
『日語教学与教材創新研究』高等教育出版社 (中国) pp.1-15
- ・ 共生日本語教育とはどんな日本語教育か 『フェリス女学院大学 日本語教育学論究』第4号 pp.1-37

◆教育内容

(1) 日本語教育コースで開講している「日本語教育実習」を科研費研究の一環とすることで、受講生だけでなく、後期課程国際日本学に所属する院生も含めて研究チームを作り、研究を進める態勢を作った。実習生間の話し合い、実習生の内省レポート、教壇実習における実習生の教授行動、参加者の談話などを収集し分析し、研究会で口頭発表を行い、論文にまとめる作業を行った。この態勢により、①自分たちの実践を対象とすることで、実践と研究の相互交流を体験できること、②グループによる研究とすることで、研究手法が先輩から後輩に伝授され、共有されること、③修士1年次にも小さい論文を1本仕上げられること、などの点で、日本語教育研究者を養成することを目標とする本コースにとって教育的意義があると考えた。この研究への参加を通して、修士論文、博士論文へと研究課題を育てていく院生もいる。

(2) 鶴見中学における教科学習支援に院生を参加させることで、学校現場を知り、現場に直接影響力を与えることのできる研究のあり方について考える場を与えた。

◆Research Pursuits

The educational pursue should be characterized as the following: (1) education pro gram for Japanese language teacher practicum was put through by being carefully designed to be integrated to a research project funded by JSPS .; (2) establishing a system in which graduate students participate in the school subjects learning support system for linguistic minority children in Tsurumi junior high school designed for the graduate students participants to shape the field where the had the opportunity to identify what would be the appropriate research manner that could be responsive to and therefore influential to educational practice.

Each of the attendants above had chances of the following experiences: 1. interactions between their teaching practice and research conducts; 2. research methodologies and fine techniques,.

◆将来の研究計画・研究の展望

1) 現在進めている萌芽研究の結果をもとにして、小中学校の教育課程の中で、国際教室担当の教員を中心にして教科・母語・日本語相互育成モデルに基づいた授業実践を実施するためのマニュアルを作成する。

(2) 共生日本語教育実習の受講生と教壇実習用教室の参加者を対象として、もともととから持っている前提だけでなくその前提の源まで遡って意識変容を促す実習コースのデザインを追求する。

◆受験生等へのメッセージ

グローバル化に伴う社会の多言語化・多文化化の動きの中で、特にその社会で言語少数派に属する人々の言語権(母語を使う、母語を保持・育成する権利とその社会の共通言語を学び使う権利)は軽視され蹂躪されるという問題が深刻化しています。そこで、国内の言語少数派の人々(例えば就労目的で来日する日系人や日本人との結婚により来日するアジアからの花嫁など)を対象として、この社会の共通言語である日本語教育を支援する第二言語としての日本語教育のあり方が問われることとなります。現状では、日本語の習得だけが強調されることによって、日本への同化要請の道具として機能するという傾向が見られます。彼らの母語・母文化の尊重の実現と統合される形の日本語教育のあり方が追求されなければならないと考えます。日本語教育コースで開講している「共生日本語教育実習」を中心にして、言語話者としての人々の全人格・生活全般を見渡す日本語教育のあり方学生のみなさんと一緒に追求していきたいと考えています。

◆Educational Pursuits

The educational pursue should be characterized as the following: (1) education pro gram for Japanese language teacher practicum was put through by being carefully designed to be integrated to a research project funded by JSPS .; (2) establishing a system in which graduate students participate in the school subjects learning support system for linguistic minority children in Tsurumi junior high school designed for the graduate students participants to shape the field where the had the opportunity to identify what would be the appropriate research manner that could be responsive to and therefore influential to educational practice.

Each of the attendants above had chances of the following experiences: 1. interactions between their teaching practice and research conducts; 2. research methodologies and fine techniques,.